

東北大

# きょうかん

発行  
東北大学教育学部  
関東地区同窓会

事務局  
〒112-0006  
文京区小日向2-25-6  
(鬼 宗久方)

電話 03-3944-0450  
FAX 03-3944-4132  
onim4771@kkf.biglobe.ne.jp

## 「継続と変革 ―ふたつの力で―」



東北大学教育学部関東地区同窓会会長  
笹川 智恵子 (教育哲学 '69年卒)

サッカーW杯南ア大会で寝不足気味の日々が続いたのは約三か月前。新聞に載る解説のうちで好きで楽しみにしていたのは、前日本代表監督のオシムさんでした。日本・オランダ戦のあとだったか、勇気をもつて、と日本チームに檄をとばしていましたが、勇気をもつて、ということ

は想像力をもつて攻めろ！ということか、と解釈して読みました。また、決勝戦については、パス回しで攻め抜いたスペインの優勝ぶりを祝福していました。W杯とはよくも悪くも今後のサッカーのトレンドを示す博覧会、見本市の役割があるのだそうです。守ってばかりじゃダメ、攻めなさい！ということなのでしょう。

守りと攻め―強引かもしれませんが、私はこれを、継続と変革という言葉に置き換えてとらえています。そしてこれは、スポーツの世界ばかりでなく、諸活動についていえることではないかと。

さて、教育学部関東地区同窓会会長役をお受けして四年。継続のための活動はそれなりにしてきたつもりですが、変革のための試みはした

だろうかと、新会員の参加をうながす努力をしてきただろうかと、同窓会の方としての新しい提案はしてきただろうかと、と自問すると、うなだれてしまいます。

たしかに、継続するという大きな力がいらすし、その点では会員の皆さまはじめ、役員方のご協力を得て結束力でつづけてこられましたことに感謝しております。会報の臨時号も発行でき、多くの会員さんから応援をいただきました。次は、この応援を土台に、既会員、若手の会員さんどちらからも、魅力ある同窓会だな、と思っていただけのように、想像力が求められるのだろうと思います。他支部同窓会や全学同窓会の萩友会との連携などは視野に

入れるひとつかもしれません。今年の総会は、文部科学省で生涯学習政策局長、事務次官などを歴任されたあと、昨年、東京国立博物館館長にご就任なさいました今人気の銭谷眞美様に講演をお願いしました。「文化」が冷遇される時代にあつて、教育と文化の重要性を論じていただけることと思います。多数のご出席をお待ちしております。

## 第11回 東北大学教育学部関東地区同窓会総会・懇親会のご案内

第11回総会・懇親会を下記のとおり開催いたします。同窓生の皆さまが旧交を温め、交流を広げるチャンスにしたいと思ひます。ご多用のこととは存じますが、是非ともご出席いただきたくご案内申し上げます。出欠のご返事は、10月30日(土)までに事務局あてにお寄せください。

東北大学教育学部関東地区同窓会会長 笹川 智恵子

記

●開催日 平成22年11月19日(金) 18時30分より

●会場 麗澤大学東京研究センター

(詳細は2ページをご覧ください。)

## 「同窓会と教職員・在校生との一体感をめざして」



宮腰 英一  
東北大学教育学部同窓会会長  
教育学部研究科長  
（教育行政 '76年卒）

今年の夏は梅雨明け宣言以後、連日三十度を超す猛暑に見舞われています。会員の皆様にはお変わりなくお過ごしのことと拝察いたします。昨年は学部創立六十周年の記念式典・祝賀会、同窓会総会におきまして多大なご支援を賜り心より御礼申し上げます。全学同窓会の東北大学校友会が二〇〇七年の創立百周年を機に発足し、毎年十月九、十日を「ホームカミングデー」と定め、卒業生と在校生の親睦・交流を深めていただくイベントを企画しています。本年度も十月九日（土）に教育学部主催の講演会・親睦会などを企画する予定です。

平成十六年度に発足した国立大学法人制度は、本年度から第二期中期目標・中期計画期間に入りました。教育学部は教育ネットワークセンターを中心に海外の有力大学や研究機関と共同プロジェクトを推進すると共に優秀な留学生の受入れ促進を

重点目標としています。特に東アジア諸国・地域の大学と連携・協力して大学院教育カリキュラムの共同開発を行い、アジアの課題に答え、世界で活躍できる教育指導者育成のプログラム作成を構想しています。目標は、アジアに理解と共感を持ち、高度な専門的知識とスキル、豊かなコミュニケーション能力を備えた人材の育成です。主要な連携先は、本学へ留学して学位を取得し、帰国してアジア各国の大学・研究機関で教員として活躍している同窓生のいる大学です。我が学部学生にも次世代のリーダーとして、留学生と力を合わせて多文化共生社会の実現に努めてもらいたいと願っています。

グローバル時代の同窓会のあり方を考える上で、一つのモデルとして部局間学術交流協定を結んでいるロンドン大学教育研究院（IOE）があります。IOEは毎年夏冬に「Alumni Life」と題した同窓会報を

## 第11回 東北大学教育学部関東地区同窓会・懇親会

- ①日 時 平成22年11月19日（金）18時30分より（18時受付開始）  
 ②会 場 麗澤大学東京研究センター  
 ③総 会 18時30分  
 ④講 演 18時50分 ★講師 銭谷眞美氏（教育行政、'73年卒）  
 ★演題 「教育と文化をめぐって」（仮題）  
 ⑤懇 親 会 19時30分  
 ⑥会 費 5000円（当日受付にてお支払いください）  
 ⑦申 込 10月30日（土）までに、同封の返信用はがきで出欠をお知らせください。  
 ⑧問 合 せ 同窓会事務局 鬼 宗久 TEL 03-3944-0450 FAX 03-3944-4132

### インフォメーション

#### ☆講師・銭谷眞美氏のプロフィール

1949年秋田県生まれ。1973年東北大学教育学部卒業、文部省入省。官房審議官、内閣審議官（内閣官房内閣内政審議室教育改革国民会議担当室長）、文化庁次長、生涯学習政策局長、初等中等教育局長、文部科学事務次官等を歴任。2009年8月より東京国立博物館長に就任（現在に至る）。

#### ☆会場・麗澤大学東京研究センター

麗澤大学東京研究センターは、新宿副都心の新宿アイランドタワー4階にあります。

所在地：東京都新宿区西新宿6-5-1 新宿アイランドタワー4階

電話：03-5323-6196

アクセス：新宿駅西口より徒歩8分。東京メトロ丸ノ内線西新宿駅下車すぐ上。

地図は大学のHP <http://www.reitaku-u.ac.jp/> 交通案内にあります。

発行し、同窓生の近況、教員の研究紹介、各種の受賞者、近刊書、イベント情報、寄付などの支援依頼、寄付者リストなどを掲載しています。

会報の特徴は、同窓生にとって母校は懐古の対象だけではなく、その現状や先端研究成果を共有化できるような、まさに同窓会と教職員・在校生が大学を介して一体感を持てる内容となっています。こうした同窓会報を発行できれば理想的ですが、実際には、東北大学校友会と共に教育学部のホーム・ページにおいて新たな情報を会員の皆様に発信し、お届けできるように充実を図ることが当面の課題です。どうか皆様の一層のご支援、ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



## 会員の便り

### 【挨拶】

東北大学教育学部同窓会仙台支部 支部長

阿部 琢也 (学校教育 '65年卒)

昨年の総会で、支部長の重責を担うことになりました阿部琢也です。昭和四十年三月に教員養成課程を卒業し、中学校教員として三十八年間を全うすることができました。退職して七年が経過しましたので、川内・片平の時代は遠い彼方になりましたが、長谷川松治先生をはじめ諸先生方のことなど、今でも懐かしく思い返されます。

さて、「関東地区同窓会」のご発展の様子につきましては、笹川会長様からのお話や会報を通して、存じ上げておりました。平成二十年には、創立二十周年を迎えられたとのこと、ご同慶の至りです。

会報『きょうかん』は、会員の方々の声を中心に編集され、内容充実、八ページのカラー印刷で、楽しく読ませていただいております。本号は節目の第十号になると伺っております。

す。重ねてお祝い申し上げます。

この場をお借りして、仙台支部の現況を述べさせていただきます。お陰様で、仙台支部は昨年に第三十回目の総会を開催することができました。本年十一月七日の総会の折には、ささやかではありますが、創立三十周年記念の催しを持つ予定であります。

いずれ、関東支部の皆様にもご案内申し上げますので、「学びの故郷」へ「仙台」への訪問を兼ねてご出席頂ければ、大変うれしく存じております。

終わりに、貴同窓会の一層のご発展と、会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げます、ご挨拶と致します。

### 【感謝状を授与される江川亮先生】

(教育心理 '55年卒)

平成二十一年十月十日、東北大学教育学部創立六十周年記念式典が、川内キャンパスの文科系総合研究棟で開催されました。そのなかで、関東地区同窓会の基礎を創られ、永年になわたって同窓会活動にご貢献くだ

さいました江川先生に、感謝状が贈られました。誠にありがとうございました。(事務局)



### 【安らかに 藤井さん】

家根 敏明 (教育社会学 '57年卒)

春、四月四日の夜、教育学部同窓会仙台支部の関口さんから藤井黎明仙台市長逝去の一報を頂いた。呆然耳を疑う衝撃だった。昨秋の校友会で「四月に大病をしたが回復は順調」と近況を伺い、「お互い気をつけな

きゃ」と握手でお別れしたのが最後となってしまう。

四月五日の河北新報は藤井市政三期十二年の功績を讃える記事が紙面を覆った。「市政の信頼回復」「地方行政に新風」「多彩なまちを推進」「文化の薫り漂う首長」「市民に深い悲しみ」等々。十日の葬儀には各界各層の多数の参列者が会場に溢れた。市長随想「素心」の一節に、「思えば私の人生のプログラムの中には『市長』という文字は微塵だに存在しなかった」との述懐があるが、市議会デビューの冒頭演説ですすでに確信を持って「希望に満ちた仙台を



つくりたい」と決意を表明、新たな市政振興に取り組み意欲を示して、芸術、文化、学術、スポーツと多彩な成果を実現された。

平成十四年十一月の当同窓会総会に記念講演を依頼したところ超多忙の日程を割いて上京され、市政の改革や国際交流等、一連の感動的なスピーチとともに、市長としての孤独な心境の一端を披露するなど、寛いだ同窓の時間を過ごしておられた。藤井さんは経済学部を卒業後一旦河北新報に入社、昭和三十年に大学院教育学研究科修士課程に再入学、教育社会学・社会教育学研究室に在籍して我々学部学生らとも二年間のゼミの生活を共有された。田辺寿利、竹内利美両教授らの学問的情熱と型破りな教授ぶりが学生を魅了し、研究室は常に活気と信頼感に満ちた空



気があった。マスコミ志望の小生は藤井さんに指導を受ける機会が多く、小生の就職が在京民放に決まった際は、飲めない彼が祝杯だと教軒の梯子酒に付合い、そのままわが学生寮に泊まって行ってくれた。彼はそういう人であった。五十四年前のその日に撮った写真が懐かしい。今は藤井さんの悠久の安らぎを心から祈るのみである。

### ◇◇◇◇◇ 「回想 教師と山男」 ◇◇◇◇◇

赤間 啓介(教育行政 55年卒)

平成二年に定年退職したが、それまでに中学校五校と兼職で大学の非常勤講師を十年間務めた。新米教師の頃は末っ子の私にとって、生徒たちは弟や妹のように思え、教えることに喜びと満足を感じていた。しかし、月日が経つにつれてごく一部の生徒を除いて教えても学ばれていないことに気づいた。「どうすれば一人ひとりに学ばせることができるか」この問題に悩みぬいた末、国立教育研究所を訪ね指導を請うたのが縁で、以後内地留学を含め二十数年

にわたって多くの先生たちから指導を受け、学習の個別化に一定の成果を上げられるようになったのであった。この経験から言えることは、教師には柔軟な思考力と発想力が必要だということである。

一方、学生時代は山岳部に所属し、東北の山は勿論、日本アルプスなどにも遠征するなど登山に熱中していた。その間二度命拾いをしたことがあるが、今から思えばそれも懐かしい思い出である。教師時代も登山は続けていたが職業柄二泊三日が限度であった。退職後は初任者研修の指導教員になったが非常勤で時間的に余裕が取れたので、フランス政府の給費留学生としてパリ大学に学んでいた長男に会いに行く際、シャモニーに立ち寄り三八〇〇米のエギーユ・デュー・ミディからモンブラン山群の眺望を楽しんだ。平成八年夏、教育現場を離れたのを機にイスへ向かった。ユングフラウは濃いガスで眺望ゼロ、マッターホルンは快晴に恵まれ、素晴らしい眺めに感動しながらトレッキングを楽しんだのであった。



天空を二分けさまにそびえ立つ

マッターホルンの山裾に立つ

焦がれ来しマッターホルンを

仰ぎ見てただ故もなく涙流れぬ

創造王の斧の造り給へる

最高のものにありしか

マッターホルン

セルヴァンを

振り返りつつ下る山道に

君らの歌声天より聞こゆ

註 「セルヴァン」はマッターホルン

のフランスの名称

「君ら」は道連れになった四人の

横浜の女性たち

(一九九六年六月二十九日～七月六日の  
スイスアルプスの旅で詠む)

今は私の健康を気遣ってくれる良  
き教え子たちに恵まれ、時折山岳部  
のOBたちと関東周辺の山々のハイ  
キングを楽しみ日々を送っている。

### 「小さな私大から大学教育の今を考 える」

東北大学教育学部 元学部長

不破 和彦(教育社会学 '65年卒)

二〇〇四年三月に東北大学教育学  
部を定年で退き、尚綱学院大学で勤  
務しています。五十年を越える女子  
短期大学から共学の大学に移行した  
のが二〇〇二年です。現在は、総合  
人間科学部のもとに六学科をもち、  
学生総数二千名の小さな大学です。  
そのうち四学科の新設に私も構想の  
作成、教員の確保などに係ったこと  
から、毎年、入学試験の時期を迎え  
るたびに、定員確保の状況に胸が痛  
みます。

女子短大から共学化による大学へ  
の組織替えは、全国的な潮流である  
入学学生数の減少を打開する策とし  
て期待をこめて選択されたようです  
が、全国にある私立大学の四十%は

赤字経営にあると言われていたこと  
からも、定員学生数の継続的な確保  
は、特に小・中規模大学にとって非  
常に難しい状況にあります。今、日  
本の私立大学は二極分解、又は格差  
拡大とも言えるのです。

一方で、高等教育の中核を担う大  
学教育の質向上、高水準で先端的な  
知識や技能を修得した人材育成を目  
指す高等教育政策にすべての私大も  
包摂され、具体的な対応が求められ  
る状況にあります。大学のもつ「対  
応力」が大学間の二極分解をさらに  
拡大的に再生産していくという図式  
にあります。

こうした私大を取り巻く事態は高  
等教育の研究課題としての私の関心  
を引き付け、中国や韓国の大学教育  
改革との比較をも試みながら、日本  
の私大の今、そして将来的な動向に  
注視しているところ です。

### 「近況報告」

木戸 裕 (教育哲学 '74卒)

今年三月、三十三年間勤務しまし  
た国立国会図書館を退職しました。

学生時代、指導教授の小林政吉先生  
のもとで学びました教育哲学の研究  
からはすっかり遠ざかってしまいま  
したが、国会の立法補佐機関に勤務  
しまして、日々国政課題との関わり  
の中で、研究分野で申しますと、比  
較教育的な調査業務に従事できた  
のではないかと思っています。国会  
図書館と申しますと、日本で一番大  
きな図書館ということは、皆さんに  
よく知られているのですが、そのな  
かに私が過ごしてまいりました調査  
及び立法考査局という議員の立法補  
佐の仕事をしている部署があつて、  
そこに約百九十人の職員が勤務して  
いるということは、まだ十分知られ  
ていないようです。退職した今、求  
し方を振り返ってみて、一方におい  
ては役所の事務的な仕事、もう一方  
では研究的な調査の仕事の両方を経  
験でき、どちらも中途半端なままで  
終わってしまったといえはその通り  
なのですが、しかし国家公務員とし  
て、この二つの道を並行して、自分  
なりに満足感をもって歩むことがで  
きたことを幸せに思っています。

退職後の近況ですが、高崎経済大

学の非常勤講師と大学入試センター  
 入学者選抜研究機構の客員研究員を  
 務めさせていただいています。時間  
 的な余裕ができましたので、これま  
 で書いてまいりましたものをとりま  
 とめて刊行する予定で、目下詰めて  
 いるところです。

その他、これまでなかなか参加で  
 きなかつた学会、研究会への出席、  
 原稿書き、事典の編集委員など、結  
 構忙しい毎日を送っています。昨年  
 十月は、思いがけなく母校の六十周  
 年記念式典で「ヨーロッパ高等教育  
 改革の潮流と大学の変貌」という演  
 題で講演の機会を与えていただき、  
 たいへん光栄に思いました。六月に  
 は、東京在住の哲学の同級生三人で、  
 ほんとうに久しぶりに一献傾け、楽  
 しいひと時を過ごしました。



## ★お懐かしい恩師のご消息★

### 【旧教育哲学・教育史専攻】

荒井 武先生 (教育史)	仙台で暮らしておられます。
小林 政吉先生 (教育哲学)	仙台で暮らしておられます。
沼田 裕之先生 (教育史)	東京のご自宅でお元気に暮らし、科研費研究に従事しておられます。

### 【旧教育社会学・社会教育学専攻】

佐々木 徹郎先生 (教育社会学)	仙台でお元気に暮らし、教育ネットワークセンターのプロジェクトに参加しておられます。
不破 和彦先生 (社会教育学)	仙台でお元気に暮らし、尚絅学院大学に勤務しておられます。

### 【旧教育行政学・教育内容・学校管理専攻】

木村 力雄先生 (教育行政学)	仙台で暮らしておられます。
松井 一磨先生 (学校管理)	仙台でお元気に暮らし、最近、東北大学出版会からご著書を出版されました。

### 【旧教育心理学専攻】

寺田 晃先生 (発達心理学)	静岡のご自宅でお元気に暮らしておられます。
----------------	-----------------------

### 【旧心身障害学専攻】

松野 豊先生 (知能障害学)	仙台でお元気に暮らし、ミュージカルに取り組むとともにソビエト心理学研究を続けておられます。
山下 栄三先生 (視覚障害学)	仙台でお元気に暮らしておられます。
永淵 正昭先生 (聴覚・言語障害学)	仙台でお元気に暮らし、今も松島・塩竈方面の耳鼻咽喉科クリニックで現役を続けておられます。
村井 憲男先生 (知能障害学)	仙台にて宮城学院大学の非常勤講師を続ける一方、最近はパン造りに励まれているようです。
新谷 守先生 (視覚障害学)	仙台でお元気に暮らし、ときどき大学にも顔を出しておられます。
菅井 邦明先生 (聴覚・言語障害学)	東北福祉大学で教育研究を行っておられます。
川村 秀忠先生 (発達障害学)	横浜のご自宅で過ごされているとのこと。

笹田 博通先生 (哲学) からの情報、  
 情報提供協力者：高橋 満教授 (社会)、宮腰 英一教授 (行政)、本郷 一夫教授 (心理)、川住 隆一教授 (障害)

第10期 役員

顧問	会計監査	幹事	事務局長	副会長	会長
藤澤 勇	荒木 敏明	家根 六郎	越河 敏明	大曾 根良衛	菊地 明
小林 幸一郎	江川 亮	高橋 敏行	菊谷 邦雄	奥住 秀之	長沼 真吾
藤野 博	小戸 昭文	木戸 裕	小熊 順子	徳田 英明	小玉 幸彦
今野 正保	星 永揚	高橋 良彰	新井 雄啓	田沢 良介	鬼 宗久
堀籠 英夫	菅川 智恵子	阿部 孝	堀籠 英夫	堀籠 英夫	堀籠 英夫
○印	○印	○印	○印	○印	○印
'59	'58	'57	'57	'55	'55
'55	'55	'55	'62	'60	'91
'88	'84	'76	'74	'69	'69
'69	'68	'66	'66	'65	'63
'62	'69	'69	'61	'69	新任

●第9期 一般会計収支決算書 (平成18年11月—平成20年10月)

1. 収入の部

(単位：円)

科目	A 予算額	B 決算額	差異 (B-A)	摘要
1. 維持会費	600,000	563,780	△ 36,220	①3,000円×194名=582,000円 ②手数料18,220円 ①—② 563,780円
2. 寄付金	10,000	31,000	21,000	会費より
3. 雑入	5,000	6,646	1,646	利子、出版物等
4. 繰越金	277,526	277,526	0	第8期収支残
合計	892,526	878,952	△ 13,574	

2. 支出の部

(単位：円)

科目	A 予算額	B 決算額	差異 (B-A)	摘要
1. 運営費	300,000	279,495	△ 20,505	本部理事会、第9期役員会等
2. 活動費	430,000	219,483	△ 210,517	総会・役員会の開催準備、会報作成
3. 需用費	140,000	138,430	△ 1,570	「きょうかん」郵送代、通信費等
4. 予備費	22,526	0	△ 22,526	
合計	892,526	637,408	△ 255,118	

3. 第10期への繰越金

収入決算額 878,952円—支出決算額 637,408円 = 241,544円

●第10回 総会・懇親会収支計算書 (平成20年11月14日開催 アルカディア市ヶ谷)

(単位：円)

(1)収入の部			(2)支出の部		
科目	金額	摘要	科目	金額	摘要
総会・懇親会費	288,000	3,000円×36人	会場費・宴会費	360,256	
雑入	113,655	祝金、一般会計	謝礼、手土産等	41,399	講師、来賓へ
合計	401,655		合計	401,655	

●第10期 収支予算 (平成20年11月～平成22年10月)

【第10期の活動方針】

1. 収入の部

(単位：円)

科目	第10期予算額	第9期予算額	対前期増減	摘要
1. 維持会費	600,000	600,000	0	3,000円×200人
2. 寄付金	10,000	10,000	0	
3. 雑入	5,000	5,000	0	利子等
4. 繰越金	241,544	277,526	△ 35,982	第9期収支残
合計	856,544	892,526	△ 35,982	

2. 支出の部

(単位：円)

科目	第10期予算額	第9期予算額	対前期増減	摘要
1. 運営費	300,000	300,000	0	役員会等
2. 活動費	400,000	430,000	△ 30,000	総会、会報等
3. 需用費	140,000	140,000	0	会報送付、通信費等
4. 予備費	16,544	22,526	△ 5,982	
合計	856,544	892,526	△ 35,982	

会員相互の親睦と交流を本旨とし、本会の一層の充実発展を目指し、会員の意見、提案を反映させる「会員参加の同窓会」を運営の基本とする。この趣旨にもとづき、会員の理解と協力を得ながら、次の活動を堅実に継続推進する。

- (1)会員交流の拡充
- (2)会報「きょうかん」の発行
- (3)第11回総会・懇親会の開催
- (4)東北大学教育学部同窓会・東北大学校友会との連携
- (5)その他

# きょうかん 第10期 (平成20年11月~平成22年10月) 維持会費協力のみなさま

納入ありがとうございました。(220名、敬称略、卒業年度順)

## 【教育哲学 17名】

大曾根良衛 上條信治  
若林 滋 沼田裕之  
古橋康子 伊藤忠篤  
笹川智恵子 鈴木重男  
臼田わか子 木村俊二  
戸張嘉勝 木戸 裕  
小林昭文 小林洋子  
奥村 寛 高松典子  
伊藤久徳

## 【教育社会学 59名】

小林幸一郎 鈴木諦弘  
家根敏明 大寄 晋  
長谷川嵩 野原忠博  
太田武久 菊谷邦雄  
大野 忠 堀籠英夫  
石塚米子 越中屋淳一  
池田 公 杉浦洋一  
西村孝雄 中林勝男  
北森義明 浅野 勉  
室岡英夫 鈴木俊之  
萬矢和恵 佐藤千代乃  
星 永揚 阿部 実  
塩入 肇 巽駒太郎  
佐久間孝正 今野勝利  
齋藤貞夫 小玉幸彦  
野島節子 菅野 正  
薄木正雄 津田和夫  
藤澤美姫子 北館博人  
佐々木博 市塚 守  
佐々木昭美 津吹 茂

## 【教育行政学 44名】

高野康代 井腰伯子  
今野俊治 文屋弘之  
文屋和恵 菅谷 清  
小泉信三 岩田 真  
佐々木浩 佐々木牧子  
沼尾立子 松本英子  
田崎正紀 飯野健児  
歌代真人 小高久典  
鈴木英一 稲葉美沙子  
梶塚典子

## 【教育心理学 34名】

鈴木晶子 中島洋明  
寺内 誠 長沼真吾  
江川 亮 磯部裕子  
関根正喜 斎藤忠志  
奥泉英夫 位田尚隆  
吉岡 忍 黒住ひろ子  
木村 祐 菅田美紀子  
会田元明 小熊順子  
舛岡道子 佐藤良子  
佐野建夫 関野いく子  
加藤光男 笠原恵子  
吉村葉子 鷲尾純一  
出口利定 伊藤良子  
中村美恵子 伏見陽児  
寺島ひろ子 大森 茂  
大室充子 野露るみ子  
玉井眞理子 小滝 威

## 【心身障害者学 16名】

佐藤秀一 小原弘三  
高橋 哲 鈴木貞夫  
高橋敏行 田沢良介  
高橋良彰 大沼直紀  
横田法子 落合俊郎  
山森伸子 細淵富夫  
諏訪幸子 北島善夫  
三浦得雄 塚田賢信

## 【学校教育学 50名】

鈴木晶子 中島洋明  
寺内 誠 長沼真吾  
江川 亮 磯部裕子  
関根正喜 斎藤忠志  
奥泉英夫 位田尚隆  
吉岡 忍 黒住ひろ子  
木村 祐 菅田美紀子  
会田元明 小熊順子  
舛岡道子 佐藤良子  
佐野建夫 関野いく子  
加藤光男 笠原恵子  
吉村葉子 鷲尾純一  
出口利定 伊藤良子  
中村美恵子 伏見陽児  
寺島ひろ子 大森 茂  
大室充子 野露るみ子  
玉井眞理子 小滝 威  
吉田恵子 馬場章信  
野村正宣 濱田豊彦  
佐藤秀一 小原弘三  
高橋 哲 鈴木貞夫  
高橋敏行 田沢良介  
高橋良彰 大沼直紀  
横田法子 落合俊郎  
山森伸子 細淵富夫  
諏訪幸子 北島善夫  
三浦得雄 塚田賢信  
及川 元 板井啓修

### 第11期(平成22年11月~平成24年10月) 維持会費納入のお願い

東北大学教育学部関東地区同窓会は第10期を終了し、第11期活動に入ります。同窓会活動は会員のみなさまからご協力いたしております維持会費(2年間で3000円)により支えられております。第11期も、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

つきましては、同封いたしました「郵便振込票」で平成22年12月末日までに、維持会費の納入をお願い申し上げます。

東北大学教育学部関東地区同窓会  
会長 笹川智恵子

●連絡先 事務局 鬼 宗久  
TEL 03-3944-0450  
FAX 03-3944-4132  
メール onim4771@kkf.biglobe.ne.jp

高橋典英 堀内純子  
野崎 智 佐藤邦男  
梶原 葉 辻 寛  
熱海光子 志子田宣生  
篠 博久 菊地 明  
渡辺健郎 高橋渥子  
中井ちとせ 石坂清子  
大金武文 柴田洋子  
馬場 順 猪又和子  
石倉正身 大堀 哲  
大原亮子 高橋陸人  
川野恵子 村井綏子  
佐々木馨 永井勝利  
戸塚 馨 渡辺成男  
金野久子 松本正敏  
石塚光子 渡辺登美子  
丹野光穂 後藤 光

「きょうかん」、節目の十号をお届けいたします。母校・同窓会の近況や会員動静の一端を中心にまとめました。ともすれば情性に埋没しがちな日常ですが、これを契機に同窓会員との人間関係の輪を抜け、人生の活力増強にお役立ていただければ幸いです。会員の皆様のこれまでのご協力に感謝し、更なるご支援をお願いいたします。(星)

## 編集後記

木村益子 鈴木保一 今野正保  
相馬敬司 横館厚太 吾妻順子  
富永和彦 石森ミネ子 前田美美子  
細谷靖男 熊谷俊六 吉成 明  
鬼 宗久 菊地 洋